

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年：142名 (一学年50名、二学年47名、三学年45名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (福学オリンピック) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ 生徒同士が多様性を認め合い、互いの個性を尊重しながらスポーツを楽しむことができる
5 取組内容	福学オリンピックについて ○ 概要 学年対抗のスポーツ大会でフットサル、ドッチビー、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボールの4種目に分かれて競技を行う。各種目で順位を付け、それに応じた得点の合計で総合優勝を決定する。 ○ 事前学習 1、体育の授業で競技のルールや特性についての理解を深める。 2、ホームルームで出場種目に関するアンケートを実施する。 3、自立活動の時間でオリンピック・パラリンピックについての理解を深める。 4、各競技種目、チームごとに分かれて作戦やメンバーを競技する。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当日 <ul style="list-style-type: none"> 1、開会式を行い、生徒の気持ちを高める。 2、各種目で競技を行う。 3、各競技で表彰を行う。 ○ 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> 1、終業式に総合優勝の発表と表彰を行う。 2、取り組む姿勢等、当日の振り返りを体育の授業で行う。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒総会においてクラスマッチをしたいという要望が挙がり、その意見を尊重した形で今回の「福学オリンピック」の計画に至った。生徒は自分たちの要望が少し違った形ではあるが実現したことで、非常に前向きに取り組む姿勢が見られた。 ○ 運動の苦手な生徒も得意な生徒も楽しめる競技を選択したことでほとんどの生徒が意欲的に取り組むことができた。 ○ 学年対抗にしたことで、個の力ではなく、集団の力に目を向けるような言動が多く見られた。特に、休憩時間等で自主的に作戦を考える姿や運動の苦手な生徒に助言することができていた。 ○ 学校行事の新たな取組として、今後は生徒会や各委員会で運営できるように検討することができるようになった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校は軽度の知的障がいをもつ高等部の生徒が在籍しており、運動の苦手な生徒が多くいる。また、中学時代は不登校や成功体験の少なさから、学校行事に積極的でない生徒がいるため、そのような生徒が安心して参加できるように競技を運動の苦手な生徒でも楽しめるグラウンドゴルフやドッチビーを競技の中に取り入れた。また、運動が得意な生徒に関しても総合型地域スポーツクラブ等で行われていることが多い、ソフトバレーやフットサルを取り入れることで生涯スポーツにつながられるようにした。 ○ 本校では、他者との関わり方に課題をもつ生徒が多くいるため、すべての競技をチームで行えるようにした。グラウンドゴルフに関しては、5人～7人を1チームとして、1打ずつ交代していくことで、互いに補い合う場面を設定した。 ○ 本校の生徒は、ほとんどの生徒が卒業後の一般企業への就職を目指しているため、「福学オリンピック」に関しても、3つの観点を意識させる工夫を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 1つ目は、学年という大きな集団を意識させることである。そのため、すべての競技に順位をつけ、学年が獲得した総合得点で総合優勝を決めることにした。 2つ目は、チーム単位での集団を意識させることである。運

	<p>動の得意な生徒もそうでない生徒も共通の目標をもって、活動できるように事前学習で作戦を立てる時間を確保した。また、勝ちにこだわりすぎて楽しめない生徒がでないように、各チームに1人監督として教師を配置した。</p> <p>3つ目は、個を意識することである。チームの中で自分自身がどのような役割を果たすことができるのか考えさせるために練習の際、自分の得意なことや苦手ことをチーム全体に伝える活動を取り入れた。</p>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度は初めての取組であったため、競技の内容や生徒をチームごとに振り分けることなどを体育科が中心となって行ったが、今後は生徒の主体的活動に広げていく必要があると感じた。 ○ 練習時間を十分に確保できなかった。 ○ 時間割の都合により、福学オリンピック当日に表彰を行うことができなかった。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事の精選をしている中で、今回の福学オリンピックを実施したため、本校の教育目標である「職業的自立と社会参加」の観点をより明確にする必要がある。 ○ 生徒の主体性をより充実させるために、生徒会や委員会と連携していく必要がある。 ○ 勝った時の喜びや負けた時の悔しさ、努力することのすばらしさ、協力することの大切さをより感じることができるよう、体育の授業との関連性を深めることや放課後、昼休み等での練習時間の確保をしていく必要がある。